

# 會報

平成9年3月15日 発行

第 34 号

関東地区整形外科勤務医会

発行所：〒300 茨城県土浦市下高津2-7-14

国立霞ヶ浦病院整形外科内

関東地区整形外科勤務医会

☎ (0298) 22-5050

FAX (0298) 24-0494

事務局：代表 関 寛之

編集：会報編集委員会

## 巻頭言

### “歴史は繰り返す”のか？

虎の門病院整形外科部長 立花 新太郎

“歴史は繰り返す”と言う。“前車の轍を踏む”とも言う。一方で“温故知新”と言う。後者が過去より学ぶという意味で肯定的な意味で用いられるのに対し、前二者は、過ちを繰り返す人間の本性を否定的にとらえている。

かつてCloward が提唱した、腰椎後方椎体間固定術は、移植骨の脱転による馬尾神経根障害のため一時は顧みられなかったが、Pedicule Screw による後方固定術の併用法として後側方固定より優れているとしてよみがえった。長管骨の内固定もA-O法によるプレート固定が全盛であったが、横留めスクリュウの併用により髄内釘が復活した。このように科学・技術の世界では優れたアイデアが技術的な裏付けを欠くため実用面では成功せず打ち捨てられても、工夫の積み重ねや材料、技術の進歩により実用化される時代が到来する。新しい治療法は、多くの先人が試みたことの中にヒントを見出すことができるかも知れない。まさに“温故知新”である。

さて、このような技術の進歩にくらべて、人間の所業はどうだろうか。ヨーロッパの火薬庫と呼ばれた、バルカン半島はチトー時代の一瞬の安寧を失い再び戦火にまみれたことは記憶に新しい。歴史は繰り返しているのだろうか。我々の身近に身を転じれば、厚生省主導で新たな卒後初期研修制度が導入されようとしている。憶い起こせば、日本全国を席捲した大学紛争も、医学部ではインターン制の矛盾に端を発したものであった。かつて改革を叫んだ若き医師、医学生もいまや診療、教育、研究の第一線にいます。歴史は繰り返してはならない。新たな研修制度がかったのインターン制と同じ道をたどらないよう、お仕着せの制度とならないよう、研修を指導する者、受ける者が真摯な議論を積みあげる必要がある。整形外科認定医制度も昨年度より資格更新がはじまっている。この制度を形骸化させないよう、我々整形外科勤務医は、より充実した研修を提供するため、いま一度、足元を見つめなおす時である。

## 主要目次

- |                                   |              |        |   |
|-----------------------------------|--------------|--------|---|
| 1. 巻頭言                            | 『歴史は繰り返す』のか？ | 立花 新太郎 | 1 |
| 2. 第23回日整会認定教育研修会講演要旨             |              |        | 2 |
| 3. 勤務医会ニュース                       |              |        | 3 |
| 4. 平成9年度関東地区勤務医会総会と第24回教育研修会のお知らせ |              |        | 4 |
| 5. 病院紹介                           |              |        | 5 |
| 6. 会員の移動                          |              |        | 8 |
| 7. 入会のご案内                         |              |        | 8 |
| 8. 事務局日誌・編集後記                     |              |        | 9 |

## 第 2 3 回 日 整 会 認 定 教 育 研 修 会

平成8年12月7日(土)教育研修会が開催された。講師と演題は第1席が勤務医会々員の東京都衛生局技監の林 泰史先生の「骨粗鬆症への社会的医学的取り組み」という講演であった。整形外科医はできあがった骨粗鬆症の治療にあたるだけでなく、中高年女性の健康上の最大関心事である骨粗鬆症への社会的取り組みにもっと積極的に関与する必要性を強調された。ボンヤリしていると骨粗鬆症の予防事業など行政施策面で整形外科医は内科医や婦人科医の後塵を拝することになるかも知れず、行政畑を歩む林先生の警告と受け止めたい。第2席は東京大学総合文化研究科教授の福林 徹先生の「膝靭帯再建術の現状と将来」で10余年にわたり試行錯誤が続くACLの再建術の歴史と将来の展望についてご講演いただいた。当日は膝関節研究会と重なっていたにもかかわらず、掛け持ちで勤務医会の講師を引受けていただき厚く感謝申し上げます。

尚、教育研修会の参加者は39名でした。会員の皆様の会費で運営している自前の研修会です。大勢の会員のご来聴をお待ちしております。

### 骨粗鬆症への社会医学的取り組み

東京都衛生局技監 林 泰 史

40歳以上の人達に対して老後の不安材料は何かと質問したところ、経済的不安と訴えた人は6割であったが、健康不安を訴えた人は8割にも達した。これは加齢に伴う生理機能の低下、退行、変性が疾病を招きやすいことを多くの人達が直感しているためであろう。このことを実証するかのようになり1人当たりの医療費は15～19歳の青年層に比べ70歳以上の高齢層では10倍近くにも達し、筋・骨格系疾患に限ってみれば65歳以上の人達の総医療費は15歳以下のそれに比べて2.2倍と高くなっている。

高齢者の罹病しやすさ、疾病により惹起される寝たきり状態は何としても避けたいところであるが、東京都の調査では骨折・外傷に基づく寝たきり高齢者の割合は、7.4%から11.5%へと、この10年間で1.6倍にも増加してしまった。都民のうち40～60歳代女性の80%以上が骨粗鬆症に関心を持ち、50%以上が骨量検診を望んでいるのは加齢に伴い増加する骨粗鬆症に先手を打って生き生きとした生涯を全うしたいためであろう。

歳を取ってから骨折に見舞われたくないといった国民の願望は骨粗鬆症に対する薬物根治医療だけで納得せず、国に対して予防施策を立てるように要求した。それを受けて厚生省では平成6年から18～39歳女性を対象にした婦人の健康づくり事業の一環として、また平成7年から40歳、50歳の女性で総合健康診査を受ける際に、骨密度検診・予防対策をとるような施策を開始した。東京都でも40歳から5歳間隔の節目年齢の65歳までの女性に対して骨密度・検診・予防対策をとるよう平成7年より事業開始をしている。その他、健康保健組合でも骨粗鬆症予防対策をとるよう課長通達が出され、学童生徒の骨の健康を守る事業についても検討され始めるなど、社会全体で骨粗鬆症予防対策をとる環境作りが出来上がった。この状況の中で骨疾患については最も信頼されている整形外科医は診断・治療・教育・検診・生活指導で中心的役割りを担う事が期待されているのである。

# 膝靱帯再建術の現状と将来

東大総合文化研究科教授 福 林 徹

膝関節の靱帯損傷の中で現在靱帯再建術の対象となるのは、ほとんどが前十字靱帯損傷である。前十字靱帯再建術は日本で年間約1万件程度行われていると推定される。前十字靱帯再建術の対象は競技レベルのスポーツ選手や、スポーツ愛好家でもプレーに不安感を伴う例である。手術法として以前人工靱帯が多用された時期もあったが、長期的に断裂例やトンネルのosteolysisを来す症例が散見される様になり、現在はその使用は一部の先生にとどまっている。米国ではallograftがまだ多数行われているが、日本では法制上の問題もあり現在はほとんど行われていない。日本での再建術は骨付き膝蓋腱を用いる方法と半腱様筋腱や薄筋腱の多重折を用いる方法(ST/G)に二分されており、欧米に比較してST/G法を用いる先生方が多い。ST/G法はRosenbergらが行っている様にendobuttonを用い、半腱様筋腱を四重折りにして固定すれば強度的にもまた体積の面からも骨付き膝蓋腱を上回っており、良好な成績が期待される。本術式は皮膚切開が小さく、膝蓋大腿関節部痛をきたさないこと、前十字靱帯のanteromedialおよびposterolateralの両bundleが再建できるなどのメリットも大きい。手術にあたっては脛骨および大腿骨のトンネルの関節内開口部をisometric pointに開けることが大切であり、脛骨は後十字靱帯付着の前方7mmの所、大腿骨はposterior notchの前方8mm、時計の位置として1時、または11時にあけるのが良い、notch plastyは基本的に必ず行う事が望ましく、靱帯再建時必ずimpingementの有無を鏡視下に確認することが重要である。手術後のリハビリテーションはShellbourneのaccelerated rehabilitationに準じる。可動域制限などは行わず、可及的にROM練習と荷重負荷を行う。通常2~3ヶ月でjogging、半年から9ヶ月でのスポーツ復帰をめざす。現在靱帯再建術の8割は満足すべき結果が得られているが、疼痛、不安定性、膝拘縮を残す例が2割に見られ今後更なる術式やリハビリテーション法の改善が望まれる。

## 勤務医会ニュース

### 臨時総会の開催

平成9年度は日整会評議員の改選の年で評議員選挙への対応と関東地区整形外科勤務医会の基盤強化をはかるための役員改選などの問題が生じました。総会で議決を要する事項ではありませんが重要案件であり、その協議経過と結果を会員へお知らせするため、平成8年12月7日に幹事会に引き続き臨時総会が開催されました。出席は委任状を含め111名、会員数425名で総会は成立し、議長に山梨の工藤 尚先生、副議長に茨城の小林健一先生を選出して議事に入りました。

#### 1) 日整会評議員選挙に関して

次期の日整会評議員の関東地区の定数は今期より1名減の62名で、大学が47名、臨床整形外科医会が1名減の8名の立候補が予定されているとの情報がありましたので、勤務医会は今期と同数の7名の候補者をたててのぞむことになりました。

た。常任幹事会での協議で下記の先生方に候補者として立っていただくことに決め、幹事会および総会にて承認されました。

### 記

秋山 典彦	茅ヶ崎市立病院
石名田 洋一	国立埼玉病院
大井 利夫	上都賀総合病院
大谷 清	国立療養所村山病院
岡井 清士	都立大久保病院
関 寛之	国立霞ヶ浦病院
山浦 伊装吉	九段坂病院

(敬称略50音順)

ご承知のように立候補者が定数に達しなかったため全員無投票で当選となりました。

#### 2) 関東地区整形外科勤務医会の役員改選について

会則に従い幹事の互選により副会長に神奈川県立リハビリテーション病院の村瀬鎮雄先生が選出

されました。また常任幹事には各都県の代表幹事と日整会の役員を新たに加えることになり、会長より新たに10名が指名されて決まりました。

会長、副会長、常任幹事は次の方々です。(敬称略50音順)

会長：大井利夫

副会長：村瀬鎮雄

常任幹事：秋山典彦(神奈川)、東晃(東京)、石突正文(茨城)、石名田洋一(埼玉)、泉田良一(埼玉)、大井利夫(栃木)、大谷清(日整会理事)、大森薫雄(日整会監事)、河端正也(東京)、工藤尚(山梨)、司馬正邦(東京)、白石建(栃木)、関寛之(茨城)、立花新太郎(東京)、細谷俊彦(群馬)、三笠元彦(東京)、村瀬鎮雄(神奈川)、山下武広(千葉)、山浦伊弉吉(東京)

## 平成8年度の年会費納入のお願い

平成8年2月末日現在で平成8年度の年会費をお納めいただいた会員は232名です。会員数が425名で納入率は55%です。平成7年度は同時期の納入率は61%でしたので、事務局としてはとても暗い気持ちです。関東地区整形外科勤務医会は日本整形外科勤務医会の活動を支える太い柱です。勤務医の活動を日整会のなかでもっともっと盛りたてるために会費の納入をお願いいたします。未納の方には振込用紙を同封させていただきました。すれちがいに納入された方には失礼の段お許し下さい。

なお、平成9年度の会費は次号の会報発送時に納入のご案内をさせていただきます。

## お知らせ

### 平成9年度関東地区整形外科勤務医会総会 第24回 日整会認定教育研修会

関東地区整形外科勤務医会では、下記のごとく総会及び教育研修会を開催致します。なお、研修会の出席予約は要りません。認定医以外の先生方もお誘い合わせの上、ご参加下さい。会終了後、懇親会も予定しています。

#### 記

日時：平成9年6月7日(土) 15:00～18:00

会場：住友化学・参宮寮(地図参照)  
〒151 東京都渋谷区代々木4-1-3  
TEL. 03-3320-3994

幹事会：14:30～15:15

総会：15:20～16:00

教育研修会：16:00～18:00

(1) 大相撲力士のスポーツ障害  
(16:00～17:00) (N・S 1単位)

講師：同愛記念病院  
整形外科医長 土屋 正光先生

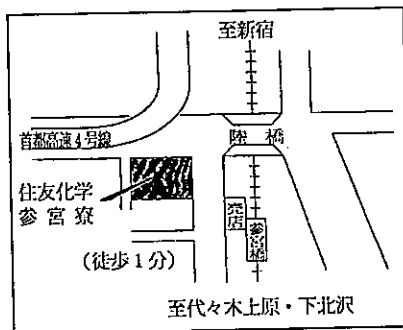
(2) リウマチ疾患と腎障害  
(17:00～18:00) (N・R 1単位)

講師：東京慈恵会医科大学  
臨床検査医学講座助教授 柴崎 敏昭先生

会費：1題2000円

懇親会：ひきつづき18:15～より同会場において行います。(共催 住友製薬)

住友化学工業㈱参宮寮案内図



東京 (中央線) 20分 新宿 (小田急線) 10分 参宮橋

● 駐車場はございません。

## ◆ 病院紹介 ◆

下記の項目順にしたがって、400字詰原稿用紙2～3枚におまとめください。

1. 病院名
2. 病院所在地、郵便番号、電話番号、FAX番号
3. スタッフ（全員）
4. 外来担当一覧表
5. 月間、週間行事（勉強会、カンファランス）
6. 科の特色（特に力を入れている領域）
7. 地区医師会との協力はどの様にされていますか？
8. その他、勤務医会にたいする希望など。

原稿送付先：〒300 茨城県土浦市下高津2-7-14  
 国立霞ヶ浦病院 整形外科内  
 関東整形外科勤務医会事務局  
 会報編集委員会内  
 TEL 0298-22-5050  
 FAX 0298-24-0494（庶務課）

### 【81】 国立相模原病院

〒228 神奈川県相模原市桜台18-1

電話 0427-42-8311（代表）

スタッフ：院長 工藤 洋

医長 岩野邦男、神田健博、

医師 丸谷龍思、亀田尚徳、渡邊耕太  
 野澤大輔、西野仁樹（非常勤、  
 前医長）

外来：当整形外科は整形外科外来のみでなく、内科と共同でリウマチ外来も担当している。またこのほか西野が膝およびスポーツ外傷を火曜日の午後に診察している。

	整形外科	リウマチ外来
月曜日	神田、亀田、渡辺	岩野（斉藤）
火曜日	神田、丸谷 野澤又は岩野	西野（山田、相川）
水曜日	交替制（手廻りのため新徳のみ）	工藤（山田）
木曜日	岩野、亀田、野澤	（山田）
金曜日	工藤、丸谷、渡邊	岩野、神田（杉井） （ ）内科医

行事：月曜日は午後全員で回診を行い、患者の治療方針や問題点などを議論する。また夕方より勉強会を開いているが、これはテキストを分担して読んだり、自分で調べた事について発表したりしている。また第四木曜日には内

科医師とリウマチを中心に症例検討会を行っている。定時手術は水曜日の全日、金曜日の午後からであり、いずれも二列で行うので、外来要員を残し、全員手術室に入る。

特色：当病院にはリウマチアレルギーセンターが設置されており、リウマチ患者は多い。リウマチ外来が内科、整形外科とは別に設けられ、両科の医師が共同で診療に当たっている。何か問題が起きたときや手術適応などでは、きわめてスムーズに意見の交換が行われる。また二階建てのリウマチ病棟もあり、一階は主に手術患者、二階は内科的な問題のある患者が入院するが、ここでも随時医師が行き来して有機的な治療が行われる。

ちなみに整形外科で担当する病床数は75～80床であるがその半分はリウマチ患者である。また手術も約半分はリウマチであり、当然人工関節の手術が多い。一般整形では骨折、特に社会の高齢化を反映して老人骨折やそのほか関節疾患、脊椎、腫瘍なども少なくない。

医師会；当院はかつては神奈川の北部から西部にかけての中心的な総合病院として、地域医療に貢献してきた。そのため医療機関の増加した現在でもterminal hospitalの性格が強く、周辺開業医との病診連携はスムーズにしている。また相模原市医師会整形外科医会の運営にもかかわり、年6回の症例検討会のうち2回は当院が世話役を行う。

その他；医療水準の高度化するが、一方では経済の低迷、保険財政の危機、老人人口の増加などで、医療の現場には種々の問題が以前にも増して押し寄せている。これは整形外科のみ問題ではないが、今後の医療はどうなってくるのか不安を感じるこのごろである。（岩野邦男）

### 【82】 医療法人財団 河北総合病院

〒166 東京都杉並区阿佐ヶ谷北1-7-3（本部）

〒166 東京都杉並区高田寺南4-27-12

（健診センター）

電話 03-3339-2121（代）

FAX 03-3339-3604, 03-3338-2005

スタッフ：湯川佳宣（産業医担当部長兼任）

石山嘉宣（理学療法科主任科長）

鈴木博之（診療部長・主任科長）  
 伏見昌樹（科長）  
 鮫島弘武（医員）  
 以上認定医  
 長谷川元信（医員）  
 菅田安男（医員） 他にパート4名

外来：

	外 来	病 棟
月曜日	湯川, 鈴木, 長谷川, 伏見	鮫島, 菅田
火曜日	石山, 鈴木, 鮫島, 菅田	湯川, 伏見
水曜日	湯川, 長谷川, 菅田, 伏見	鈴木
木曜日	湯川, 鈴木, 石山, 鮫島	伏見, 長谷川, 菅田
金曜日	湯川, 長谷川, 伏見	鮫島, 菅田
土曜日	鮫島, 鈴木, 伏見	湯川, 長谷川
毎週火曜午後	新生児検診	水・木曜午後
リウマチ外来	金曜午後（装具）	土曜午後も

初診外来受付。

行事：毎週月曜PM6：30より総合カンファランス。

特色：当院は昭和3年発足した城西地区に於ける377床の中核病院で、1日平均1200名（整形外科250名）の外来患者を有し、整形外科病室50床を受持つ。歯科以外はすべての科を標榜している総合病院で、別に健診センターに於いて人間ドックの他に最近THPなどの産業医活動を盛んに行っている。常勤医師63名、パートを入れると医師100名を越す。看護婦185名、准看護婦28名、助手24名、クラーク20名でリハビリテーション関係ではPT4名、ST2名、OT2名、他1名を有し、総従業員数は平成9年1月31日現在で606名である。また附属看護学校は定員年間35名で、本年度は12.5倍の入試応募があったという。平成5年12月より5年計画で大規模なリニューアル工事が行われている現状である。

整形外科スタッフはすべて東京医科歯科大学整形外科教室の出身者で、整形外科全般に亘る診療の中で、石山（リウマチ）、鈴木、長谷川（膝）、伏見（股）、鮫島（上肢）らによる専門診療に特に力を注いでいる。年間外来新患数約7000、入院延人数約700、平成8年は手術件数541であった。年2回の東京医科歯科大学整形外科主催の学術集談会に、主として研修医の発表、他に日整会、各分科会においての演題発表も行っている。大学を中

心とし、23の各関連病院と相互連携し、患者交換がしばしば行われている。

医師会：スタッフすべて杉並区医師会整形外科医会に属し、年5回の学術講演会、親睦会を行っているが、うち4回は区内の整形外科勤務医の廻りもちによる講演、1回は名誉教授・現教授らによる講演をお願いしている。

その他：当院全体として地域医療の更なる充実、病診連携、高度専門医療の推進、救急医療（年間約4000件）の整備等、また最近はPOSの導入による病院機能のハード面の促進が行われている。今後、関東地区整形外科勤務医会との情報交換の必要性を推進する次第である。（湯川佳宣）

### 【83】千葉県こども病院

〒266 千葉市緑区辺田町579-1

電話：043-292-2111

FAX：043-292-3815

スタッフ：亀ヶ谷真琴（医長）

篠原裕治（医長）

黒川雅弘（研修医）

外来：

	午前	午後
月曜日	回診	外来
火曜日	外来	外来（二分脊椎）
水曜日	外来	病棟
木曜日	手術	手術
金曜日	検査	検査・回診

担当医は特になく、全員で外来、病棟、手術をこなしています。

行事：毎月第一月曜日：

PM7：00からOpen conference

毎月第1、第2火曜日：

PM5：00から抄読会。

特色：小児整形外科の中でも二分脊椎症児が他の同様の施設と比べ多く、他科（脳外科、泌尿器科、小児外科）と協力し、集学的治療を行っています。また、骨・関節疾患では、小児股関節疾患（先天股脱、ペルテス病、大腿骨頭すべり症など）の症例が多く、内反足や小児骨折と合わせ、診療とともにクリニカルリサーチを行っています。また、最近のトピックでもある脚延長術についても、積極的に行っています。

医師会：病院として小児科を中心に懇談会などを行っていますが、科単独では特に行っていません。しかし、最近では、専門性が周知されるに従い紹介患者の数が年々増加しています。（亀ヶ谷真琴）

#### 【84】きぬ医師会病院

〒303 茨城県水海道市新井木町13-3

電話 0297-23-1771

FAX 0297-22-8111

スタッフ：平林宏之（診療科長）

宮城 哲（医員）

辻井績武（医員）

外来：月～金（午前中のみ）特に専門外来は設置していない。

月曜日 平林、宮城 義肢装具

火曜日 辻井、宮城 義肢装具

水曜日 平林、宮城 義肢装具

木曜日 平林、辻井

金曜日 平林、宮城

行事：月・水・金の午後は手術日で、火・木の午後は脊髄造影などの検査に当てている。月曜はPTとの合同回診で、夕方からはPT・訪問看護職員・ケースワーカーとのカンファレンスを行い、退院後の方針や受け入れ先の相談をしている。毎月第一木曜夜から筑波学園病院での定例症例検討会（一木会）に参加している。

特色：当院は昭和63年6月13日に開院した比較的新しい病院で、現在病床数124床でなんとかやりくりをしている。開院時はここまで患者数が増えることを予想していなかったため、病棟はほとんどいつも満床、外来は予約制をとっているが待合室が狭いためいつも混雑している。医師はすべて筑波大学医局出身で、それとは関係なく各科の風通しはすこぶる良好である。整形外科は今年になってやっと3人体制となった。脊椎関係の手術が20%以上を占め、（そのなかでも頸椎椎弓形成術が主）、大きな特徴と思う。

医師会：医師会病院であるので医師会員からの紹介が多い。なるべく紹介先へ戻すよう気をつけている。紹介患者は病診連携室で全て把握されており、返事はほぼ100%であろう。

1ヶ月に1回の地域医師会向けの勉強会・症例検討会を開催し、フィードバックしてい

る。それから月一回の病診連携室便りの発行などが主たる活動と思う。現在MRIを導入するための工事で、今年8月から稼働予定である。

その他：特になし

（宮城 哲）

#### 【85】茨城県立こども福祉医療センター

〒310 茨城県水戸市吉沢町3979-3

電話 029-247-3311

FAX 029-248-5177

スタッフ：難波 健二（センター長）

伊部 茂晴（医長）

二木 康夫（医員）

外来：月曜、水曜、金曜の午前中

その他の曜日は要電話予約

行事：火曜 午後 手術

水曜 午前 装具診

午後 総回診

月1回 外来カンファレンス

月1回 病棟カンファレンス

金曜 午前 装具診

特色：18才未満の児童を対象とした肢体不自由児施設である。主とする業務は股関節脱臼や内反足などの四肢の変形、奇形、その他の骨関節の疾患と、各種の脳神経障害、運動麻痺、発達障害等などの障害を持つ児童の診断治療及び機能訓練である。それらの疾患の大半は治療に長期間を要するため、長期入院児には幼児教育や学校教育を並行して行い、身心の両面からの育成を目指している。機能訓練のためのスタッフもそろえ、小児科医を含め二者が協調して障害児の総合した治療にあたっている。

医師会：特に積極的に活動はしていないが、診療の特殊性から多数、ご紹介をいただいている。

（伊部茂晴）

#### 【86】済生会川口総合病院

〒248 埼玉県川口市西川口5-12-1

電話 048-253-1551

FAX 048-256-5703

スタッフ：佐藤浩一（科長、部長）、脊椎外科

野本 栄（部長）、手の外科

松岡 正 (医長)、脊椎外科  
南家秀樹 (医長)、脊椎外科  
三森甲字 (医長)、手の外科 (肩)  
肱黒泰志 (医員)、脊椎外科  
非常勤：星野明穂 (膝)、浜崎義雄 (膝)

外来：

月曜日 佐藤、野本、南家  
火曜日 松岡、三森、肱黒  
水曜日 野本、三森、星野  
木曜日 佐藤、松岡、浜崎  
金曜日 佐藤 (1、3、5 週予約)、松岡 (2、4 週予約)  
南家、肱黒  
土曜日 野本 (予約)、南家 (予約)、新患係  
(但し、2、4 週は休診)

行事：火：夕方、術前カンファレンス  
水：8 時、新患紹介  
木：7 時30分、脊椎術前カンファレンス  
(東京医科歯科大学にて)

特色：入院患者は原則として、脊椎及び手の患者のみ。他はすべて他院紹介する。下肢疾患 (主に膝、下肢外傷) はすべて川口工業病院に紹介する。代わりに川口工業病院の脊椎及び手の入院患者は紹介してもらうといった協力体制を行っている。

医師会：特になし  
その他：特になし

(佐藤浩一)

## 会員の移動

### 新入会員

森 健躬 日本大学文理学部体育学科  
〒156 東京都世田谷区桜上水 3-25-40

村山 均 神奈川県立がんセンター整形外科  
〒241 神奈川県横浜市旭区中尾町 1-1-2  
TEL 045-391-5761

志賀 敏彦 国立霞ヶ浦病院 整形外科  
〒300 茨城県土浦市下高津 2-7-14  
TEL 0298-22-5050

土屋 正光 同愛記念病院 整形外科  
〒130 東京都墨田区横綱 2-1-11  
TEL 03-3625-6381

飯田 裕 至聖病院 整形外科  
〒336 埼玉県狭山市下奥富八反目1221  
TEL 0423-52-1001  
関口 哲夫 国保町立小鹿野中央病院整形外科  
〒368-01 埼玉県秩父郡小鹿野町小鹿野300  
TEL 0494-75-2332

富田 勸 国立塩原温泉病院 整形外科  
〒329-29 栃木県那須郡塩原町大字下塩原1333  
TEL 0287-32-4111

稻生 紀夫 稻生医院  
〒332 埼玉県川口市元郷 4-1-3  
TEL 048-222-5877

千田 俊哉 千田医院  
〒367-01 埼玉県児玉郡美里町根木107-1  
TEL 0495-76-0041

篠原 裕治 千葉県こども病院 整形外科  
〒266 千葉県緑区辺田町579-1  
TEL 043-292-2111

### 退会者

矢吹 武

### 訃報

今井 卓夫先生 (武蔵野赤十字病院整形外科) が平成9年1月4日に急逝されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## 勤務医会入会のご案内

日整会の運営も整形外科医療を支える大学、臨床整形外科医会、勤務医会の三者が緊張感をもちながらうまくかみ合って、諸活動が活発に行なわれるようになってきました。勤務医会としては発言力を増すため、さらに組織基盤を固めようと会員増の努力をしております。平成9年3月15日現在、関東地区整形外科勤務医会の会員数は433名で、昨年より32名会員が増えました。県支部としては埼玉県、神奈川県支部が設立されています。将来的には各都県支部の設立をめざしていますが、まだ地域の特殊性や意識の面で支部活動ができる所できない所のでこぼこがあるので一律にはいきません。幹事会では当面は各都県の自主性にまか



せるということにしております。

事務局からのお願いです。会員の所属する施設にいる整形外科医に入会を勧誘して下さい。ローテーションの医師も含めて。また、身近にいる勤務医の方にも入会を呼びかけて下さい。1年前の会報31号で河端先生が巻頭言で「入会のメリットは？」と問いかけておりますが、ケネディ大統領が激動の時代に呼びかけたように、勤務医会が会員に何かをしてくれるのかを考えるのではなく、勤務医が勤務医会を通して何ができるかというアイデアをどんどんぶつけて下さい。常任幹事に行動力のある若手が多く加わりました。

## 事務局日誌

- 11月19日 会報33号を会員に発送
- 11月28日 日整会評議員選挙立候補者7名全員の立候補届けを確認
- 12月7日 幹事会及び臨時総会に引き続き教育研修会
- 12月17日 評議員選挙は候補者が定数以下で全員当選の報
- 1月24日 常任幹事会
- 2月1日 日整会教育研修会(6月7日)の開催通知書を発送
- 3月5日 会報34号の原稿を印刷所に発送
- 3月7日 日整会評議員会への勤務医会提出議題についての協議会

### 入会申込書

平成 年 月 日

(フリガナ)

御氏名 \_\_\_\_\_

生年月日 (大正・昭和) 年 月 日

現住所 〒 \_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_

勤務先名称 \_\_\_\_\_

勤務先住所 〒 \_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

役職名 \_\_\_\_\_

出身大学 \_\_\_\_\_

卒業年度 \_\_\_\_\_

出身教室 \_\_\_\_\_

入会申し込み送り先

〒300 茨城県土浦市下高津2-7-14

国立霞ヶ浦病院整形外科内

関東地区整形外科勤務医会事務局

関 寛 之

TEL 0298-22-5050 FAX 0298-24-0494

### 編集後記

年末から年始にかけて大蔵省、厚生省、運輸省にかかわる不祥事や汚職が発覚し、綱紀粛正の大合唱になった。事務局のある国立病院にも綱紀粛正のきわめて具体的な指示がきた。いわくカレンダーや手帳を業者から受け取ってはならぬ、金を払っても関連業者と会食してはならぬ、講演に行ってはならぬ、原稿の依頼を受けてはならぬ。つまり汚職を防止するのは業者との接触を絶てばよいというきわめて単純な発想である。許認可権と補助金による中央集権の行政機構が糾弾されているのに。医療の現場からいえば多職種、多機関の連携がこれからの医療のあるべき姿との認識が高まってきたところで、関連の業種との接触を原則的に禁止するというのは本末転倒もはなはだしいと編集子には思えるのだが。

# Didronel



骨代謝改善剤 エチドロン酸 ニナトリウム錠

錠(指) (要指) **ダイドロネル<sup>®</sup>錠200**

薬価基準収載

■ 効能・効果、用法・用量、使用上の注意等は添付文書をご覧ください。

製造発売元

資料請求先 住友製薬株式会社

〒541 大阪市中央区道修町2丁目2番8号

Trademark and product under license from Procter & Gamble Pharmaceuticals, Inc. U.S.A

# ボーンセラム<sup>®</sup>P

骨補填材

**BONECERAM-P**

承認番号62日第1201号

バイオフィUNCTIONALな機能設計に基づいて  
製造されたハイドロオキシアパタイトです。

■特徴

1. 骨動態学的特性を有しています。
2. 生体適合性が優れています。
3. 生物学的安全性が認められています。
4. 力学的強度が優れています。
5. 臨床的有用性が認められています。

■性能、使用目的、効能または効果

骨または関節手術における骨補填。

■使用上の注意

1. 本品使用の際は、無菌的に取り扱うこと。
2. 本品は滅菌済包装してあるので、手術直前に開封し、すみやかに使用すること。
3. 開封したものは再使用しないこと。
4. 本品は、できるだけ清潔な場所で保管すること。
5. 高度の荷重がかかる関節面の湿下などにおける本品の単独使用は避けること。

■使用方法

採骨部位または骨欠損部位に、予め生理食塩液に浸漬した成形加工品または顆粒を、充填又は補填する。

製造元

住友セメント株式会社

東京都千代田区神田美土代町1番地

販売元

住友製薬株式会社

大阪市中央区道修町2丁目2番8号

連絡先 住友製薬株式会社 診断薬機器部

〒541 大阪市中央区伏見町2丁目1番1号 TEL.(06) 229-5649  
 〒101 東京都千代田区神田駿河台3丁目11番地 TEL.(03)5280-6643  
 〒980 仙台市青葉区中央4丁目5番1号 TEL.(022)261-2651  
 〒450 名古屋市中村区那古野1丁目47番1号 TEL.(052)562-2855  
 〒812 福岡市博多区博多駅前1丁目2番5号 TEL.(092)431-6671